



INTERNATIONAL NETWORK for the PREVENTION OF ELDER ABUSE



International Network for the Prevention of Elder Abuse (INPEA)

2006年6月15日(木)

INPEAの歴史

高齢者虐待防止国際ネットワーク (INPEA) は、1997年にオーストラリアのアデレードで誕生しました。その年の8月に、老年学国際協会 (IAG) は、アデレード市の国際会議場で「第16回老年学世界大会」 (The 16th World Congress of Gerontology) を開催しました。4年に1度世界の様々な所で開かれる IAG の世界大会には、毎回世界各国から2000人以上の高齢者に関わりのある研究者や実践者が集まります。IAGの大会は、日本人にとってもポピュラーな集会です。因みにアデレード大会には、170名以上の日本人研究者・実践者が参加していました。

さて、アデレード大会には、前回のいずれの大会より高齢者虐待の問題に関心のある研究者や活動家が、より多く世界各国から集まってきていました。高齢者虐待をテーマとしたいくつかのセッションでは、活発な討論が展開されていました。このような雰囲気のアデレード大会の最中に、ランチタイムや休憩時間を利用してインフォーマルな会合を繰り返していた高齢者虐待を専門とする数人の研究者がいたのです。結果的には、これらの研究者が、INPEAの創立者であったのです。そして、これらの研究者は、アデレード大会が終了するまでに INPEA の構想を完成させていたのです。

それでは、INPEA の構想を検討し、その創立に関わった研究者を紹介します。まず、活動の中心的人物は、Dr. Rosalie Wolf (Director, University of Massachusetts Institute on Aging) でした。本職の他に、彼女は、当時彼女自身が設立した National Committee for the Prevention of Elder Abuse (NCPEA) の会と高齢者虐待の研究分野では、唯一のレフリー・ジャーナル Journal of Elder Abuse & Neglect の編集長を兼ねていたのです。ウルフ氏が国際的なレベルでの活動を望んでいることは、彼女の周りの人達はみな知っていたでしょう。次に、Dr. Elizabeth Podnieks (Professor of Nursing for Ryerson University in Toronto, Canada) は、最初から INPEA の設立に賛成で、ウルフ氏を引き立てる役を積極的に演じていました。ポドニクス氏が、国際的に活躍するには、INPEA のような組織がきっと必要だったので、彼女の振る舞いは理解できます。

イギリスの高齢者虐待領域の活動家で、医師の Dr. Gary Bennett (Professor, School of Medicine, London University) 及びラテンアメリカ地区で数年来高齢者虐待研究の指揮を

とってきたアルゼンチンの Dr. Lia Daichman (Associate Professor, Belgrano University)が、熱心に INPEA 設置の必要性を説いたのも、ポドニクス氏と同じ理由からだったでしょう。また、オーストラリア人老人専門医師の Dr. Susan Kurrle (Hornsby Hospital in Hornsby, NSW)は、高齢者の医療現場で働く人達が、INPEA のような機関の活動に参加すべきであると説いていました。最後に、米国高齢者虐待問題研究所 (NCEA) の所長 Toshio Tatara も、上で述べた小グループの研究者のメンバーとして、INPEA の設立に積極的に賛意を示していました。

結局、小グループに最後まで残って INPEA の構想を検討したのは、上記の 6 人とイギリス人のソーシャルワーク大学講師の Ms. Bridget Penhale でした。しかし、彼女は、ベネット氏のアシスタントのような形で出席していたようで、発言も控えていました。最後の話し合いで、INPEA を発足させることを決定して、役員「案」も決めました。会長にはウルフ氏、そして副会長にはベネット氏を決めました。次に、事務局長兼財務担当理事に多々良氏を選出しました。さらに、ポドニクス氏には、北米地域担当理事、クール氏にはオセアニア地域担当理事、そして、ダイチマンにはラテンアメリカ地域担当理事をそれぞれ担って戴くような「役員案」を決定したのでした。さて、この「役員案」を会員に「承認」してもらわないといけないのですが、その会員がいないという問題がありました。そこで、1997 年の残りの 4 ヶ月を使って INPEA の会員を募集して、1998 年の 2 月にカナダのトロントで会員の総会を開催して、承認事項の承認を済ませて、正式に INPEA の組織の発足が決定しました。

結 論

このようにして INPEA は発足したのですが、その後、いくつかの予期していなかった不幸な出来事が INPEA を襲いました。たとえば、2002 年にはウルフ氏が亡くなりました。そして、その 2 年後にはベネット氏が逝きました。ウルフ氏もベネット氏も、INPEA を越えて、それぞれ世界で指導者として活動していたので、その損失は計り知れないものがあるでしょう。INPEA は、これらの不幸な出来事に敏速に対応しました。その結果、会長には Dr. Lia Daichman、副会長には、Dr. Elizabeth Podnieks、事務局長には Ms. Susan Somers, J.D. を配置して、全て会員から承認を戴きました。2003 年 6 月に、INPEA は国連の高齢者虐待に関する「助言機関」に任命されました。Dr. Patricia Brownell が INPEA の国連担当理事ですが、WHO など、複数の国連機関との交流が増えるにつれて、他の役員の仕事も拡大するでしょう。

以上。

文責：多々良紀夫

2006 年 6 月 15 日「第 1 回世界で高齢者虐待を考える日」に寄せて